



ごみ **ゼロ** 社会 をめざそう

4つのRで始まるキーワード

- 1 断 **る** Refuse
- 2 減 **量** Reduce
- 3 何度も使う Reuse
- 4 分別徹底 Recycle

http://www.city.hino.lg.jp/
 発行 日野市環境共生部
 クリーンセンター
 ごみゼロ推進課
 ☎ 581-0444



分別 **お迷い** クイズ

Q あなたはどのように出していますか？



中身の残ったマヨネーズや
ケチャップの容器

答えは、この冊子内のどこかに掲載されています

前年度のごみ量が確定
 入1日あたりのごみ量が2年連続最小値
 2面

今号の主な内容

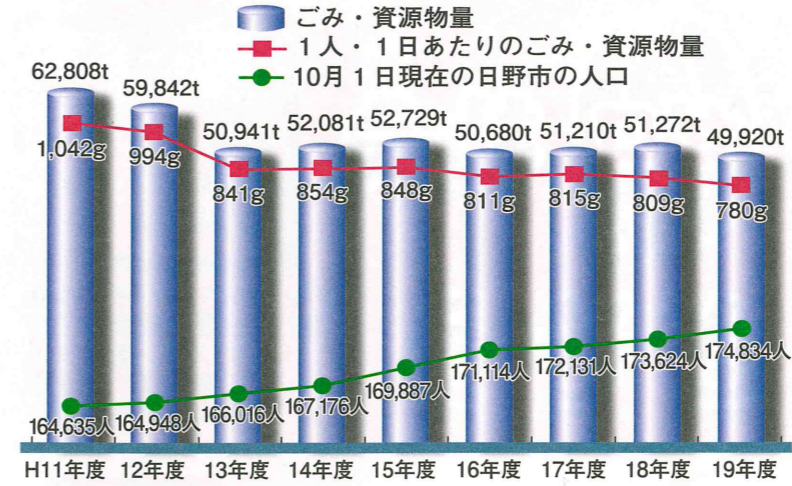
- 指定ごみ袋・粗大ごみシール取扱店の変更……………2面
- マイバッグご持参を!「いなげや」レジ袋無料配布中止から1年……………3面
- 「分ければ資源 混ざればごみ」企業はどんなエコをしているの? ……4~5面
- 市民のページ「ごみ減量の達人に学ぶ!第2弾」……………6~7面
- 若者・学生の視点~実践女子短大編集部のエコ編集後記……………8面

平成19年度のごみ量が確定 一人1日あたりのごみ量

2年連続

過去最小値

平成19年度の総ごみ量（ごみと資源物の排出量）が確定しました。平成18年度に比べて、ごみ・資源物の総量が1千352ト減少して4万9千920トに。一人1日あたりごみ排出量も29グラ減って780グラムとなり、2年連続して、ごみ改革後最小値



の良い結果になりました。これは、市民皆さんが日頃からごみ減量に対して高い意識を持ち、努力されたことが好結果をもたらせたものです。ご協力ありがとうございました。

目標は更に上です

市民参画で策定した「環境基本計画」では、一人1日あたりごみ排出量が平成22年度に多摩地域で一番少ない自治体になろうという目標を掲げていますが、第1位との差は、約66グラムあります。

目下の課題は「生ごみの減量」

可燃ごみの半分は「生ごみ」です。普段の生活の中で、「食材を買いすぎない」「作り過ぎない」「調理くずを減らす工夫をする」「食べ残しをしない」「生ごみは水分をよくしぼる」を実践してください。

また、不燃ごみについても、もう一度分別の徹底確認をお願いします。さらにレジ袋を断り、過剰包装の商品を買い控えましょう。一人1日あと100グラムを目標に、ごみ減量にご協力ください。

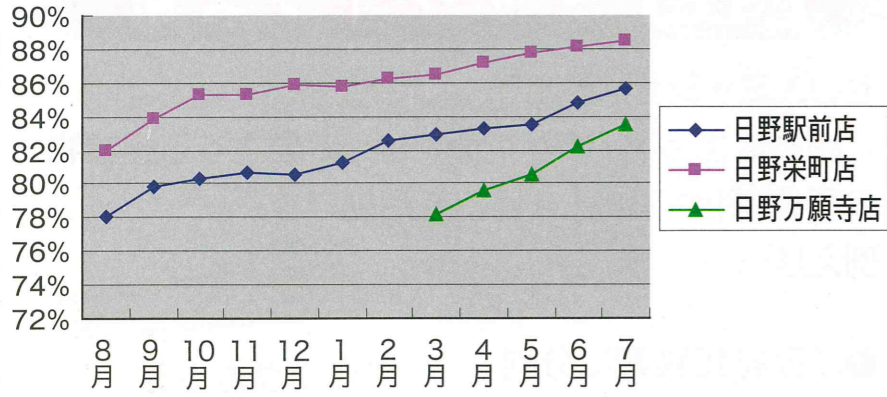
取扱店の変更

指定ごみ袋 粗大ごみシール
4月から8月末に変更があった分です。

指定袋取扱開始

- マツモトキヨシ日野駅前店（日野本町3の11の5）
 - マツモトキヨシ豊田駅前店（多摩平1の2の18第一ビル）
 - コモディイイダ聖蹟桜ヶ丘店（多摩市関戸4の72）
 - オーケー多摩大塚店（八王子市大塚629の1）
- 取扱終了したお店
- スーパリアルプス宇津木台店
 - スーパリアルプス北野店
 - サンクス豊田駅北口店
 - 舞美容室

いなげや市内3店舗のレジ袋辞退率の推移

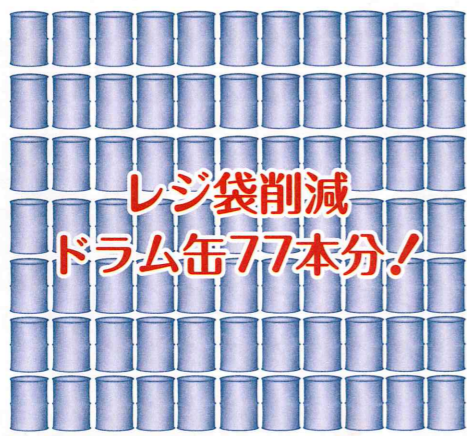


いなげや「レジ袋」 無料配布中止から1年

市と「日野市ごみ減量推進市民会議」の要請を受け、スーパーマーケットの「いなげや」が市内で先陣を切ってレジ袋の無料配布中止に踏み切ったから、8月で1年が経ちました。

無料配布を止めた結果、いなげやではレジ袋の辞退率が着実に上がっています。

使い捨ての象徴とされるレジ袋。いなげやではこの1年で、83万8千865枚もの大幅な削減に成功しました。CO₂に換算すると5万1千171ポンド（杉の木を3千655本植えたのと同じ効果）の削減。石油に換算すると1万5千351リットルの節約になります。



レジ袋削減
ドラム缶77本分！
ドラム缶1本200リットルとした場合、77本分の石油に相当します。

いなげやのレジ袋削減は、市民の皆さんのご理解とご協力に支えられています。引き続き、マイバッグを活用し、環境負荷軽減への取り組みを積極的に進めたいと、ご協力と、更なるごみ減量をお願いします。

連載① クリーンセンターの建て替え

日野市の東端、多摩川と浅川の合流点にクリーンセンターがあります。ここで、可燃・不燃ごみ、資源物の一部、汲み取られたし尿を処理しています。



これらの処理施設は稼働後20年（29年）が経過して老朽化が進み、修理などの維持管理にかかる経費が膨大で、施設の建て替えを急がねばならない状況です。廃棄物を限りなく減量させる施策を実施しながら、適正規模で効率の良い施設に建て替えることが重要です。

また、ごみ処理施設は「迷惑施設」とも呼ばれ、周辺住民のご理解の上に成り立っています。地元の方々と環境整備のための協議をこれまでも行ってきました。今後、市民皆さんのご理解をお願いします。（次号に続く）

日野市役所ホームページもご覧ください

アドレス ▶ <http://www.city.hino.lg.jp/>

●ごみ・資源物の出し方は…

トップページ ホーム ▶ **暮らし** ▶ ごみ・資源物の出し方

●ごみゼロ推進課のページ…

トップページ ホーム ▶ 各課のご紹介 ▶ 環境共生部 ▶ **ごみゼロ推進課**

ペットボトルのキャップでボランティア

不燃ごみのキャップをリサイクルしてポリオワクチン代として寄付します。

1人分のワクチンはキャップ800個分。エコキャップ運動に参加しませんか？

★洗ってご持参ください★

(株)日野衛生公社 581-3177
(回収場所は日野税務署向かいの当社)

分別 **お迷いクイズ** 答え

マヨネーズやケチャップの容器を半分に切ると楽に作業ができます。中身を新聞紙などでかき取り、洗ってから不燃ごみとして出してください。中身を含ませた紙などは可燃ごみに出してください。

次号のこの情報誌に **広告** を載せませんか？

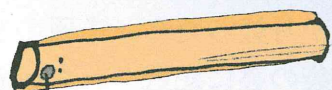
①縦4.5cm×横9.0cm (この枠の大きさ)
②縦4.5cm×横18.5cm

掲載料(予定)①…2万5千円 ②…5万円

詳細は、ごみゼロ推進課にお問い合わせを

省エネルギー活動

- エアコンの設定温度に配慮
エアコンの設定温度を、夏は28℃、冬は20℃に徹底しています。



- こまめに消灯
人の動きを感知して、自動的に点灯・消灯する照明を社内に設置したり、ヒモつき電気を使用して、こまめに部分的に消灯することで、電力の消費をおさえています。

- エコカー
事業所内を回るごみ収集車を電力で走るエコカーを採用。



▲これがエコカーです。

社会貢献活動

事業所周辺のごみ拾いを、社員有志で定期的に行っています。



また、川崎街道沿い日野郵便局前の交差点に「エプソン・通学路安全緑地」が今年3月に完成。敷地の提供や工事協力をして、見通しの良い交差点になりました。

市内企業のエコ活動紹介

分ければ資源 混ざればごみ
—企業はどんなエコをしているの?—



日野市は、市民から出されるごみの減量に併せて、市内の事業所から出されるごみも減量させるため、企業への指導に力を入れているそうです。セイコーエプソン(株)日野事業所は、エコ活動に特に意欲的に取り組んでいるとのこと、私たち実践女子短期大学編集部は取材に行ってきました。日野市にある身近な企業がどんな活動をし、どんな成果を出しているのか紹介します！



取材中の実践女子短大編集部のメンバー

●ごみの計量、分別をする。



▲沢山の種類に分別しています。



▼ごみを計量しているところです。

●ごみ処理の徹底管理をする。



◀事業所で出されたごみは、この伝票によって処分場までの行方が管理されています。ごみの処分を安易に業者任せにせず、出したごみは最後まで見届けているのです。

ゼロエミッション活動

ゼロエミッションとは？
簡単に言うと「事業活動によって発生する廃棄物の再資源化100%」を目指す活動です。
例えば……

- ごみを15種類に分別
可燃ごみ、サーマルリサイクル物、カン、雑誌・カタログ、ペットボトル、ペットボトルのキャップ、ビン、紙パック・紙コップ、コピー古紙、新聞・チラシ、金属、軟質廃プラ発泡プラ系、軟質廃プラビニール系、ざつ紙、ダンボールに分別しています。また、分別する時困らないように、わかり易く一例の表が壁に貼ってあります。



▲分別が判りやすいように工夫して掲示しています。

エコキャップ

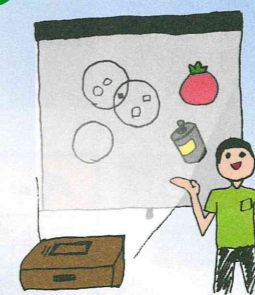
ペットボトルのキャップを集める活動です。この活動によって、世界の子どもたちにワクチンを届けることができます。今年の1月から開始し、8月までに約105,000個(260人分のワクチン相当)のキャップを日野市社会福祉協議会を通じて寄贈しました。



▲キャップはこのビニール袋の中に入れます。中には沢山のキャップが集まります。

省資源活動

会議やプレゼンの時などは、資料を作らず、なるべくプロジェクターを使用するようにしています。印刷、コピーも極力しないように心掛け、紙の無駄使いを減らしています。



企業がどんなエコ活動をしているのか、分かっていただけましたか？
私たちもできることから始め、地球に優しいエコを実践していきましょう！

市民のページ 知恵袋

ごみ減量推進市民会議が企画・編集したコーナーです。

ごみ減量推進市民会議とは、「日野市ごみゼロプラン」を実行に移していく会議で、市民約20名で構成されています。

Part15

目指せごみゼロ

減らそう!
1人1日
あと100g!!

ごみ減量の達人に学ぶ! 第2弾

多摩平にお住まいの石田喜美代さんは、ごみの減量に熱心で、生ごみ処理機を使わずに長年たい肥づくりをしていらっしゃいます。生ごみを土に返す取り組みは、お庭のある方に限られたことと思われがちですが、石田さんは集合住宅にお住まいで、ベランダでの土作りに成功しています。その方法をご紹介しますので、皆さんもお試しください。

生ごみを使ってベランダで土作り

① 容器を用意

発泡スチロールの箱(スーパー等からもらってくる。サイズは自由)がおすすめ。



③ よくかき混ぜる



⑤ その後は……



② 細かくした生ごみと土を入れる

細かくした生ごみと同量の土を入れる。



④ 作業終了

蓋をして置きます。(蓋で虫を防ぐ)



細かくした生ごみだけを入れていきます。石田さんのお宅では、3~4か月で、黒々とした土のようになります。

工夫1

生ごみと土をよくかき混ぜる時、コーヒークサや、米ぬか等を入れると良い土になります。また、卵の殻を細かく砕いて入れると良い土になります。砕く前に、殻の内側についている薄皮は取り除いておきます。



工夫2

混ぜ終わったあと古新聞を上から被せておくと、余分な水分が吸収されて上手くいきます。



大事なことは

- ①生ごみの水分をよく切ること。
- ②毎日かき混ぜて酸素がいきわたるようにすることです。



その他、ごみ減量の為にこんな取り組みも…



▲いつも持ち歩くバッグに以前もらったレジ袋を畳んでしまっています。これで、小さな物から分別徹底。



▲折込チラシを利用して作成したごみ箱。身近において、小さな物から分別徹底。



▲牛乳パックやトレイなどは、販売店の店頭回収に返しています。お店ごとに袋を分けて、買ったお店に返すようにしています。

1年間ぐらいで完成

箱の中の土が八分目位になったら新しい箱で新しく作り始めて、前の箱は3か月位寝かせます。寝かせている間も毎日忘れずにかき混ぜます。そのようにして3か経過したら石灰(石田さんは焼き海苔等に入っている乾燥剤を利用)を少し混ぜます。

石灰を入れて1か経過したら、市販の肥料(牛糞か鶏糞)を袋の裏に記載されている分量(土に対する割合)に従って入れ、よくかき混ぜます。さらに3か月程置くと土作りの完了です。

ベランダ園芸活用例

マンション2階のベランダで作っている花やハーブ、夏野菜(ナス)など鉢物の土はこれでまかっています。自宅に見に来た方は「これが生ごみから?!」とびっくりする程の黒々とした良い土になっています。今年はこの土で育てたパセリから種がこぼれて、たくさんの芽が出ました。

収穫が終わった後の土は、ふるいにかけて根などを取り除き、黒い袋に入れて封をしてベランダにしばらく置くと、乾いた(雑菌が少なし)土になります。それを(循環させ)また土として使います。

この方法を用いると、生ごみを可燃ごみとして出す量が少なくなるはず。皆さんもやってみませんか。

私が子どもの頃、「屑屋くおはらい」と呼び声をかけて回る人に不用品を何でも渡した思い出があります。引き取られたその不用品はどうなるのだろう?きつと使い道がまだあるはず。私なら何ができるかな…と、幼心にも「もったいない」の気持ちを抱きました。みんなでごみの減量に努力して、ごみ処理に使う税金を福祉に回せたらいいですね。



石田喜美代さん

私たちにも出来る

エコな取組み

実践女子短期大学
編集部

マイバッグ運動

私たちが出来る省資源活動として「買物袋持参運動（マイバッグ運動）」があります。レジ袋を減らすと、

- 1 レジ袋の原料となる石油の使用量を削減できる。
 - 2 捨てられるレジ袋が減るのでごみも少なくなる。
 - 3 ごみとなったレジ袋を燃やす時の大気汚染を防止できる。
- という効果があります。

皆さん、マイバッグを持って買い物に出かけましょう！

マイ箸運動

「マイ箸運動」とは、自分用のお箸を持ち歩き、割り箸の使用量を減らそうという活動です。

何気なく出先で食事をするときには必ずと言っていいほど使ってしまうですが、今日、日本では1年間に約250億膳の割り箸が使われています。それは一人当たり換算すると、約200膳の割り箸を使っていることとなります。

また、私たちの使っている割り箸の約96%は外国から輸入されています。シラカバや竹など数多くの木が、割り箸を作るために伐採されているのです。

お箸なんてちよつとした事だと思わずに、「もったいない」という気持ちを持って、これからは「マイ箸」を持ち歩いてみましょう。

編集後記

実践女子短期大学

編集部もお手伝いしました！

無駄な電力をなるべく使わないようにしたり、ごみでも分別することによって有効活用していったり、そういう会社全体の取り組みに感心させられました。

こういった気持ちも一人ひとり持つてもらうという意味でも、このような取り組みはとても重要なことだと感じました。

岡野夏実

今回エプソンに取材に行き、今まで目にする機会のなかった「企業のエコ」を知ることができました。

また、色々なお話をうかがうことが出来、勉強になりました。

反省点も多々ありますが、良い経験になったと思います。

下平麻里

今回、初めて企業へ取材に行き、緊張していましたが、皆さんがとても温かく迎えてくださり、感激しました。エコ活動を取材することで、環境問題について改めて考えさせられました。

この『エコ』を見てくださっている方々に、少しでもエコ活動に興味を持ってもらえたら良いと思います。

滝沢真奈美



編集部に入ってから初めて学外の活動として取材に行きましたが、皆さんが親切にしてくださいだったので、とてもやり易かったです。企業の皆さん、市役所の皆さん、本当にありがとうございました！

今後このような活動があれば是非、参加したいと思います！

深川朝帆

実践女子短期大学でも「エコキャップ運動」をしています。学生たちが自ら進んでペットボトルのキャップを集め、学校に持って来るので、収集用のダンボールの中には、毎日たくさんさんのキャップが集まります。

私たちは、これから「エコキャップ運動」を推進していきます。



▲原稿作成中の風景です。
みんな真剣です。